

社長メッセージ

2024年5月22日（水）

■「サンリアルティ株式会社と児玉社長」

皆様、こんにちは。今年3月、当社子会社『サンリアルティ株式会社』を設立致しました。先週の社長メッセージ「まかせられる人が、いる。」という西松建設様のキャッチフレーズをご紹介致しましたが、当社にも「まかせられる人が、いる。」ということで、まず、今回設立した『サンリアルティ株式会社』の『児玉舟（こだましゅう）』社長をご紹介致します。

児玉社長は、1969年生まれの55歳です。新聞記者から28才で不動産業に転じ、45才の時に京都で『株式会社リアル』を創業、『最強の京都町家投資』を出版して、インバウンド向け宿泊施設の火付け役として知られています。滋賀出身で、京都出身ではなかったため、当初は、京都での不動産事業はなかなか困難を極めたようです。そこで目を付けたのが、『空家』でした。現在、日本全国の空家率は13%にもなっており、空家対策の重要性が言われていますが、児玉社長は、彼が不動産事業を始めた約10年前から、空家対策をしっかりとしなければ、その地域がダメになってしまうとの考えを持ち、空家対策を始めました。空家が増えると、例えば、その地域の『祭』の担い手がいなくなりますし、防犯上も問題があり、地域の治安悪化にもなりかねません。そこで、空家対策が必要と考え、地域の高齢者の方々20人に手伝って頂き、市内全域の空家調査を行いました。空家を1軒1軒回って、その家を借り上げたり、買い上げたりして、新しい住人を呼び込んだり、改装して、民泊事業を展開するようになりました。

京都には、『町家』と呼ばれる、歴史ある『古民家』がたくさんあります。この『町家』を改装した民泊事業は、『町家ホテル』『古民家ホテル』として、かなりの評判を呼ぶようになります。『鈴（リン）』というブランドをお聞きになった方も多いと思います。この『鈴（リン）』の冠をつけた『町家ホテル』『古民家ホテル』は、百数十棟にもなり、株式会社リアルは、上場申請するまでになりました。私は、この『鈴（リン）』の京都らしい、京都ならではのセンスの良さに惚れ込み、ベンチャー企業投資をさせて欲しいと、児玉社長を訪ねたのが、児玉社長との最初の出会いでした。それから、思いがけず、コロナ禍が押し寄せ、残念ながら、同社は民事再生手続きを申請しました。現在、リアル社は、新しいスポンサーの支援のもと、再生中です。当時の勢いを取り戻して欲しいと思います。民事再生が決まり、新しいスポンサーの支援を見届けて、児玉社長は、同社を去りました。私としては、児玉社長の地域を想う心や、そのビジネスセンスが素晴らしいと感じていましたので、何とか、当社にお力を貸してもらえないかとお願いをして、当社グループに入って頂きました。チャレンジせずに失敗しない日々を過ごすよりも、チャレンジして失敗しても、何度でもチャレンジして、夢や目標に向かって進んでいく姿勢のほうが、ベンチャー起業家にとっては、大切だと考えています。

当社も再建中ですが、児玉社長にとっても、新しいチャレンジです。『サンリアルティ株式会社』は、当社が現在掲げている4つのテーマのうち『地方創生』と『インバウンド』に関する投資事業等を担っていきます。その中でも、地域活性化の一環として、特に『山林を活用したクリーンエネルギー事業』にも注力をしていきます。皆様、どうぞ、『サンリアルティ株式会社』と『児玉舟社長』に、御期待ください！

代表取締役社長 前田 健 晴



向かって右がサンリアルティの児玉舟社長。左が前田。